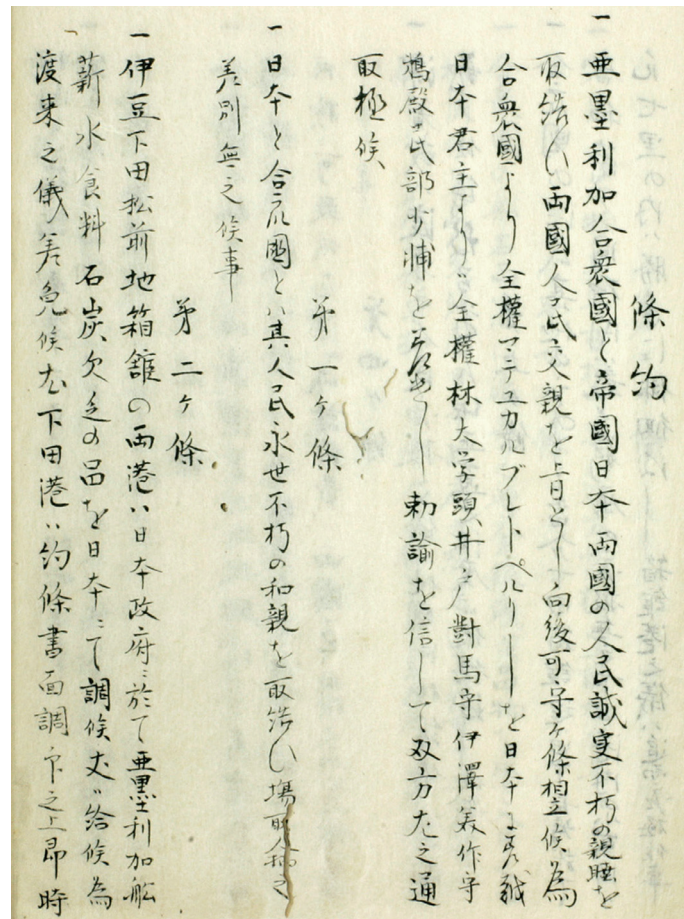


開国（日米和親条約）



* 徳山毛利家文庫 条約2「亜墨利加条約」

解説

日米和親条約は日本の欧米諸国への開国の起点となった条約で、アメリカ側全権ペリーとの間で、1854（嘉永7）年に結ばれました。左の資料は、日米和親条約と、その締結後に定められた下田条約の写しで、第二条が下田・函館の開港部分です。

下田・箱館2港の開港、漂流民の救助、アメリカへの最恵国待遇などが規定されました。幕府は、この調印を契機として、以後、イギリス、ロシア、オランダとの和親条約締結にも応じました。



- * 徳山毛利家文庫には、同時期に結ばれた4か国の和親条約がすべて含まれています。日米（条約2, 3）、日英（条約16）、日露（条約19, 20）、日蘭（条約32, 33）です。また、ペリーが持参したフィルモア大統領の書翰（条約10～12, 14）や、ロシアのプチャーチンが持参した皇帝ニコライ1世の書翰を訳したもの（条約22, 23, 34）が含まれています。
- * 一方、萩藩の毛利家文庫には、アメリカとの応接録等を含む「開鎖記事」（29風説47）、ペリー来航の様子を探索するため派遣された土井莊太郎ほかの探索日記（30地誌17。巻末に「久里浜夷人上陸図」あり＝写真上）、「相州浦賀異船渡来之図」（58絵図977）などがあります。
- * また、ペリーの来航から通商条約の締結に至る記述が、「両公伝史料」1478～1480にあります。